

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R4.10 NO.8



全日本大学バスケットボール選手権中国予選 I・II部入替戦 令和4年10月29日(土)

HCU 86 $\left\{ \begin{array}{l} 28-23 \\ 15-16 \\ 27-13 \\ 16-16 \end{array} \right\}$ 68 広島文教

入れ替え戦に回ることは本意ではあったが、気持ちを切り替えて、II部1位の広島文教大との試合に臨んだ。来年インカレに出場するためには、もちろん負けるわけにはいかない戦いである。振り返れば



パワーあふれる科野のドライブ



西のスリーポイント



試合を終えて差し入れをいただく選手



I部リバウンド王の表彰状を持つ溝口

昨年、II部1位となった我がHCU EAGLESはI部6位の広島文教大学と対戦し29点差を開けて勝利しI部昇格を決めた。その後広島文教大学にも強力な1年生が加入し、春の中国大会では、勝ちしはしたものの10点差にまで差を縮められていた。油断できる相手ではないことは選手達も良く分かっていた。試合前のミーティングでは、前半まではシーソーゲームを余儀なくされるだろうが、辛抱強く守っていれば必ず抜け出す機会が訪れると話していた。3Qまさにその時が来た。4点リードで迎えた3Qだったが、関口、西のジャンプシュートから始まり、里が得意のスチール、関口、西のスリーポイント、溝口のフックシュート等で徐々に点差を広げ70-52で3Qを終えた。4Qでは一時10点差まで差を縮められる場面もあったが、肝心な場面で里のスリーポイントが決まり、最後は科野のドライブインからのシュートで締めくくった。終わってみれば18点差での勝利であった。1年生光本もプレータイムこそ短かったが、2Qでは、ドリブルハンドオフかを見せてそのままドライブインを決めるなど、相手ディフェンスの動きを的確に読んだプレーが印象的であった。故障中の鶴池はベンチで常に大きな声で仲間を励まし続けた。同じく故障中の山本は試合の動画を撮影し次の試合に向けた確認に役立てた。マネージャーの我も次の対戦相手の動画撮影や、スコア記録のみならず、選手が試合に集中できるよう縦横無尽の働きを見せた。チームの全員が自分の役割を見つけ、出来ることに全力を尽くしたことを試合結果以上に誇らしく思う。

今大会出場に当たって保護者を初め、大学及び学園の教職員の皆様に多大なるご支援とご協力をいただいた。お世話になったすべての皆様に感謝したい。

2人の故障者も近々復帰できるだろう。新たに迎える新入生を加えて、来季には益々成長したHCU EAGLESをお見せしたいと思う。